

risei + trip

vol.
09



特集

師弟のきずな
(理学療法学科篇)

師弟のきずな。

理学療法学科篇

J R新大阪駅に直結する大阪回生病院で、リハビリに励む患者さんを日々支える理学療法士の井口奈保美さん。履正社を卒業して2年が経ったこの夏、恩師である池尾忠思先生が彼女を訪ねた。



photographs by Junko Nakata



井口奈保美さん

昭和61年長崎県生まれ。理学療法士。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー。京都ノートルダム女子大学卒業後、医療機器メーカーに就職。4年の営業職を経て、履正社の理学療法学科(夜間部)に入学する。現在、大阪回生病院に勤務しながら、大学のバレーボールチームのトレーナーとしても活動中。

池尾 井口さんが理学療法士を目指したのは、バレーボールがきっかけだったね。

井口 そうですね、中学生の時にジュニアオリンピックの県代表になりました。全国大会の決勝で負けてしまいましたが。相手チームには元日本代表主将の木村沙織選手がいたんです。今では友達ですが。

池尾 すごい。選手にもなれたんじゃないか？

井口 私、高校時代に左膝を3回手術しているんです。チームにトレーナーがいなかったため、当時は半月板の手術の1週間後に試合に出たりしていました。選手に私みたいな経験をさせちゃいけないと思ったのが、この道を目指したきっかけです。

池尾 履正社を選んだ理由は？

井口 履正社が理学療法士とアスレティックトレーナーの資格を取れる関西で唯一の学校だと知り、ここしかないと思います。夜間部を選んだのは、授業料が大幅に抑えられるからです。

池尾 最近では社会人の入学も増えてきていてね。夜間部の学生には、日中にアルバイトで働くことのできる医療機関も紹介しているんだよ。

井口 私の在学中はまだそこまでアルバイト先がなかったんで、朝、コンビニで働いていました。

池尾 申し訳なかったな。他に、医療機関で働きながら返還不要の奨学金と、働いた分のお給料ももらえる「勤労学生支援制度」という制度もできたんです。夜間部の学生は経済的にかなり助かるはず。

井口 それはいいですね。本当にうらやましいです。

先輩の目がキラキラしていた。

池尾 今はトレーナーとしても活動中だそうだね。

井口 大学のバレーボールチームをみています。卒業後も、先生方に色々とトレーナーの仕事を紹介していただくんです。在学中はスポーツ学科の先生にも

お世話になっていましたが、学科をまたいで横のつながりができる点も履正社の良さですね。

池尾 そうやな。そもそも理学療法士の活動領域は幅広い。病院内でのリハビリに限らず、スポーツ分野、福祉、保健の分野でも活躍できるからね。ところで、井口さんが就職をここに決めた理由は？

井口 在学中、臨床実習でお世話になった時に、先輩方の目がキラキラしていたからです。あんな風に働きたいって思いました。患者さんからも「ここに就職しとき」って勧められたぐらいです(笑)。

トレーナー活動にも理解が。

池尾 団結力というか、皆で何かをやっているという力がしっかりある素晴らしい病院や。個人のスキルアップも大切にしているらっしゃるよね。

井口 はい、トレーナー活動にも理解のある職場です。例えば午前中に外に出ると、私が担当している患者さんを皆さんみてくれます。

池尾 日々の勉強会で皆がレベルアップしているから、患者さんも他の先生でも安心なわけや。

井口 勉強会には言語聴覚士の方や作業療法士の方も参加されていて、すごく勉強になります。

池尾 回生病院さんには例年、本校の実習生を受け入れていただいて、本当にありがたい。

井口 色々な専門学校や大学から実習生が来ますが、受け入れられている学生の人数は履正社が一番多いです。後輩から就職の相談も受けますよ。

池尾 こっぴやって学校に関わってくれる卒業生を一人でも多く作りたいな。あの先生のように「いたい」と学生に思ってもらえるように、僕も教育を頑張ろうと思います。

井口 私自身もそう思われるよう、頑張っていきたいと思います。今日はありがとうございました。